

令和2年度 多様な新ニーズに対応する 「がん専門医療人材（がんプロフェSSIONAL）」養成プラン インテンシブコースセミナー

日 時: 2020年11月19日(木) 13:00~16:10
 場 所: 兵庫県立大学 明石看護キャンパス(演習室 406)
 テーマ: 「緩和ケアにおける臨床アロマセラピーの可能性」
 講 師: 相原 由花先生(ホリスティックケアプロフェSSIONALスクール学院
 長)
 受講者: 5名
 主 催: 兵庫県立大学看護学研究科 多様な新ニーズに対応する「がん専門医療
 人材(がんプロフェSSIONAL)」養成プラン代表 内布敦子

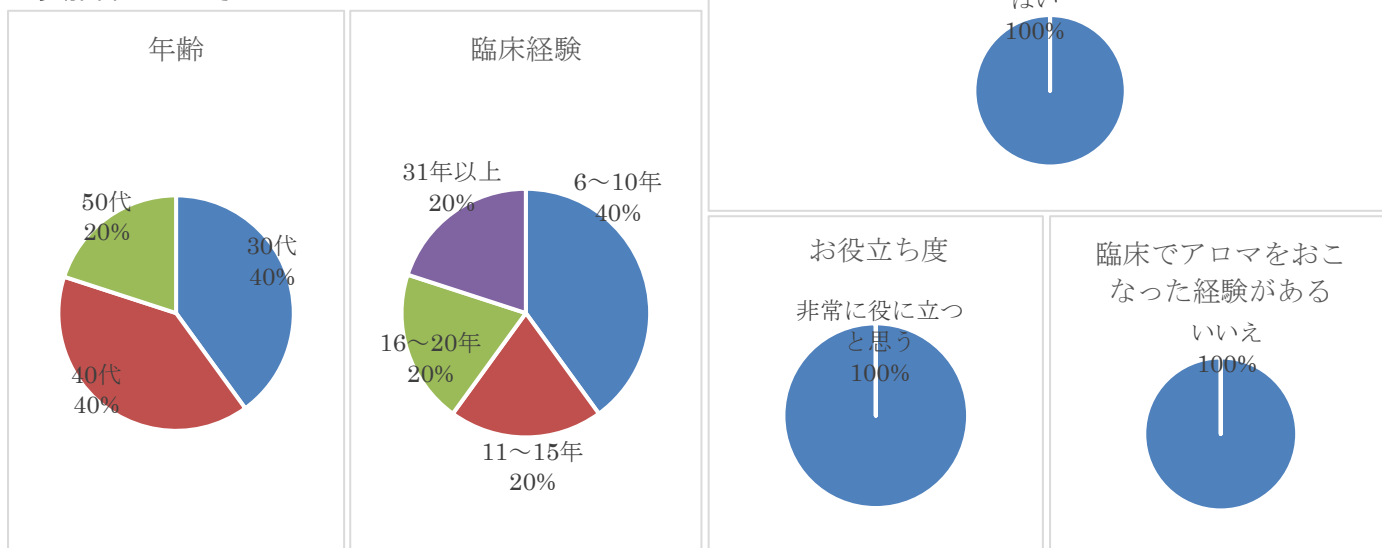


<概要>

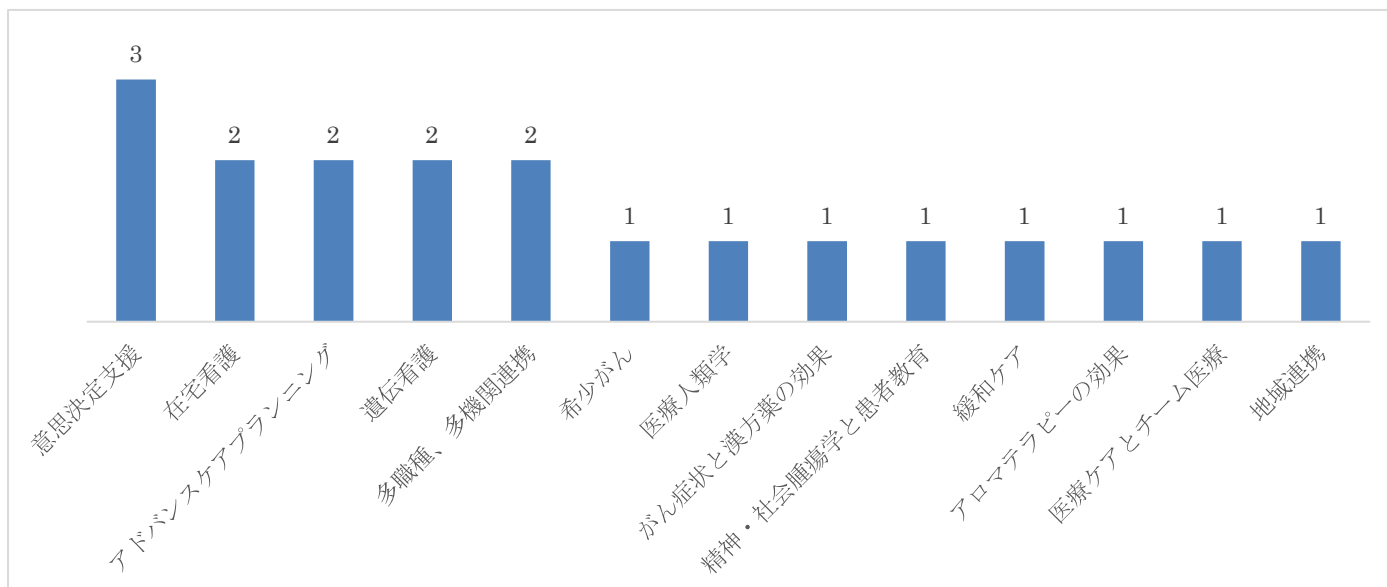
英国 ITEC 認定アロマセラピスト、(株)ホリスティックケアジャパン代表、看護学博士 相原 由花先生から、「緩和ケアにおける臨床アロマセラピーの可能性」として、緩和ケアにおけるアロマセラピーの動向から、アロマセラピーの定義、精油の種類や抽出方法、効果などの基礎知識を丁寧にお話いただき、そのあと、アロマセラピーの臨床現場での事例をご紹介いただきました。最後に、2人1組でのハンドアロママッサージ演習があり、柔らかくスムーズに見える動作が実際にやってみると思いのほか難しいことを体感することができました。

<アンケート結果>

●参加者について



●今後、セミナーに期待するテーマ



●参加者からのコメントより

▼今回のセミナーで、あなたが感じたこと、印象に残ったことがあれば自由にお書きください。

- ・看護師として患者さんに寄り添う、触れる、という事を、臨床にいと業務に偏りがちで忘れかけていたように思う。今回、これまでの臨床でのターミナルケアで、患者さんの好きな音楽を流して見送った事なども思い出し、音楽と同様にアロマも看護に通常から取り入れて行ければ、思った。良い学びの機会をいただき、有意義な講義をありがとうございました。
- ・実際に先生に実技を教えていただけてよかったです。タオルで包む方法、すぐに使えそうです。
- ・アロマセラピーマッサージで快体験が得られることは経験上知っていましたが、快体験がもたらす効果（ β エンドルフィンがでる等）があることを知ることが出来、臨床で実施する根拠の一つとなると感じました。
- ・精油に関する薬学、効果、用法の知識の重要性を初めて学び大変参考になりました。
- ・ハンドマッサージはすぐに取り入れやすいのでまずは身内で訓練を積んでから臨床に取り入れたいと思いました。
- ・実際にアロマセラピーを施行した患者事例を拝見し、効果の大きさを実感致しました。臨床で今回学んだ内容を短時間でも取り入れ患者様の安楽につながる看護を提供したいと思っております。



▼看護でアロマセラピーを行うにあたって、今最も強く感じている課題をお書きください。

- ・アロマセラピーを看護師が通常のケアに取り入れていけるように、施設の体制と認識を変える必要があると思う。医師の協力者を探すところからスタートしたいと思う。
- ・アロマの薬効があるため、院内の許可が下りなかった
- ・実施するに当たり必要性、コスト、効果について事業所内で取り組める環境作りと自身の知識と技術の習得。
- ・管理部門に理解してもらうための働きかけと、手順の標準化。
- ・組織の中で実施する上で、時間の制約を言われたり、協力を得るのが難しいといった問題は未だに大きい気が致します。

▼その他、ご意見・ご感想などありましたらお書きください。

- ・実際にアロママッサージを体験できるセミナーに参加できよかったです。ありがとうございました。